

まなづくりで交流 ペロタマシーもお目見え

県内のCSO(市民社会組織)同士の交流とまなづくりについて考える第3回地域人づくり・まなづくりサミットが、2月5日、神埼町の神幸館で行われました。

今回は、県内にあるCSO関係者が参加し、神埼市周辺のCSOの取り組みを見学しました。

その後、ICT活用セミナー「やベストセラー」「デフレの正体」の著者である藻谷浩介さんを迎え「CSO団体活動の道しるべ」をテーマに講演会が行われました。全国で実績を上げているCSOの実例を挙げた講演に、熱心にメモを取る姿も見受けられました。



サミットの最後は、交流会が行われ、参加者同士親睦を深めました。

会場の外では、佐賀県に1台しかないペロタクシー(自転車タクシー)がお目見えし、試乗会も行われました。

神幸館からひのはしら一里塚までを片道15分で巡るコースに30人が試乗し、「車では普段気づかない景色に新たな発見もあった」「風を体に感じ、心地よかった」など反応も上々でした。



また、2月1日から5日まで県内のCSOの取り組みをまとめたパネル展も開かれました。



次郎物語のかるた大会

次郎物語を題材にして作成された絵札を使った「次郎かるた大会」が、2月8日、千代田東部小学校で行われました。



この次郎かるたは、同校の6年生が総合的な学習の時間を利用して、次郎物語第一部から39枚の原画を作成し、昨年12月に完成したばかりです。

当日は、6年生が進行役となり、1年生から5年生94人を縦割りにし、16班の対抗戦で勝敗を競いました。「本当は次郎が食べたよ玉子焼き」「光ってるお民の目に似た北極星」など、次郎物語の世界を再現した個性豊かな絵札を取り合いました。また、原画作成者から場面の説明を受け、次郎物語の世界を堪能しました。

次郎かるたは、全部で1000セットを作成。6年生全員と各学年、下村湖人家、千代田町内の小学校などに配布しました。

2800点の作品展

神埼市老人クラブ連合会神埼支部主催の趣味の作品展が、1月30日から2月1日までの3日間、神埼市中央公民館で開催され、訪れた人を楽しませました。

この作品展は、高齢者の生きがいづくりと親睦を深めることを目的に、10年程前から行われており、今回は、会員の編み物や写真などの作品2800点が展示されました。



また、1月31日には、囲碁将棋大会も開かれ、大雪にも負けず、盤上で熱戦が繰り広げられました。

人生の目標や夢に向ける

武家社会で行われた元服にちなみ、14歳になった中学2年生を祝う立志式が、2月3日、千代田中学校で行われ、2年生107人の代表3人が人生の目標や夢を発表しました。



式の後、神埼町在住で(株)福岡ヤクルト工場の仲田弘昭社長が「これからの君たちへ働くこと」と題して記念講演が行われました。講演の中で仲田さんは、「学生の間に自分のやりたいことを見つけ、世の中の変化を恐れず前向きに生きて下さい」とエールを送りました。また、同日に神埼中学校で、2月10日に脊振中学校でも立志式が行われました。

古代路を駆け抜けて

1月23日、第17回吉野ヶ里ロードレース in 神崎市（神崎市体育協会・佐賀新聞社主催）が吉野ヶ里歴史公園で行われました。

大会には、市内外から約1,500人が参加し、練習の成果を発揮しようと懸命に走る選手やジョギングを楽しむ親子など、弥生の風を感じながら駆ける参加者には笑顔があふれていました。



特別賞として大会当日に誕生日を迎えた神崎球友クラブの片江莉己くん（神崎町）をはじめ6人に今回初めて「お誕生日賞」を、また、岩手県奥州市から参加した高槻譲さん、くみ子さんご夫妻に「遠来賞」、79歳で参加された音成市次さん（神崎町）には、「最高齢者賞」をプレゼントし、大会は大いに盛り上がりました。

大会結果は、次のとおりです。

部門	1 位	2 位	3 位
4km 男子	福田 勇樹 (鳥栖工業高校)	堀 聡介 (鳥栖工業高校)	石橋 優哉 (鳥栖工業高校)
4km 女子	鶴丸 知子 (小城市体協陸上部)	大島 由佳 (小城市体協陸上部)	園田 千尋 (城南中学校)
10km 男子	平 敏治 (戸上電機製作所)	久米 幸輝 (小城市体協)	藤 征光 (百武整形外科)
10km 女子	土橋 りか (2017)	酒見 範子 (がんばれチーム)	立石 恵里華 (九電工 佐賀支店)

七福神が福招く

千代田町姉地区に古くから伝わる伝統行事「姉の七福神」が2月6日に行われました。

姉の七福神は、無病息災、五穀豊穡、商売繁盛を祈り、若者が七福神に扮して家々を回る福招きの行事で、300年以上も前から、毎年この時期に行われています。

当日は、地区の保存会と消防団員が二手に分かれ、60戸を5時間かけて回りました。

七福神は、顔に独特の化粧をし、辛領人と呼ばれる案内人を先頭に「鬼は外、福は内」と豆をまきながら家の中に入り、祝いの謡いを披露した後、酒や料理などのもてなしを受けました。



百手祭で一年占う

今年も、初めて千代田中学校の生徒が地域の文化を調べるため取材に訪れ、熱心に質問をする姿がありました。

神崎町横武地区に伝わる百手祭が、1月23日に乙竜神社で行われました。

一年間の無病息災、五穀豊穡を祈願する行事で、神事後、地区の人たちが大的、紙的、菱的をめぐって矢を放ちました。

大的に当たると「良いことがある」、紙的に当たると「家族の運が良い」、菱的に当たると「豊作になる」と伝えられています。

当日は、例年になく菱的に多くの矢が当たり、「今年も豊作のよい年になる」と喜ばれていました。



火災から文化財を守る

1月30日、文化財の愛護と保護、防火意識の高揚を図るため、文化財防火デーに伴う訓練が、神崎町二丁目の県重要文化財「薬師如来像収蔵庫」とその周辺で行われました。

訓練は、「薬師如来像収蔵庫」付近から出火、収蔵庫に延焼する恐れがあるとの想定で、地区住民、神崎消防署、市消防団中部隊などが参加。発炎筒に点火し煙が立ち昇る中、区長から消防署への通報、地元住民による消火栓からの初期消火、その後、出動した消防団、消防署による消火活動が行われました。



平成22年分所得税・平成23年度市県民税の申告受付は、3月15日（火）まで、神崎市役所 税務課（☎3710114）まで

「よりよい生き方や社会のあり方」を発表

―第5回青少年主張大会―

2月12日、第5回神崎市青少年主張大会（神崎市青少年育成市民会議主催、神崎ロータリークラブ共催）が、神崎市中央公民館で開催されました。

この主張大会には、市内の各小学校の5、6年生、各中学校の1、2年生、神崎高校の1、2年生、神崎清明高校の1、2年生、西九州大学生、新成人から合計1,605人の応募があり、そのうち14人が代表としてよりよい生き方や社会のあり方について発表しました。

主張のテーマは、家庭生活や学校生活の中での経験から学び得たこと、神崎市のよさと将来像、環境問題、将来の夢、理不尽ないじめ、自分自身の成長、平和な社会へ、など多様。広く目を向けると共に、自分なりの意見を強く訴え、前向きに取り組む決意を表したものが多く寄せられました。

約400人の観客を前に自分の意見を堂々と発表する姿に惜しみない拍手が送られていました。発表者は、下記のとおりです。（敬称略）

開会から閉会まで神崎高校2年の竹下澄夏さんが司会を務め、放送部員らしく美しく歯切れのいい声で名司会ぶりを発揮しました。また、千代田中学校の吹奏楽部が特別出演し、会場を盛り上げました。



氏名	学年	学校名	主張題目
八色 夏美	6年	千代田中部小学校	私をかえてくれた能楽教室
彌永 大樹	6年	千代田西部小学校	ミニバスケットを通して学んだこと
末吉 里絵	6年	千代田東部小学校	平和の証
森崎 香奈	6年	脊振小学校	平和のバトンパス
船津 百加	6年	仁比山小学校	未来の平和のために
高尾 芽衣	6年	神崎小学校	わたしの願い
林 沙良	6年	西郷小学校	私の願い
原口ちひろ	1年	千代田中学校	私が住みたい神崎市
森田 夏代	2年	脊振中学校	夢に向かって
石丸 力斗	2年	神崎中学校	「ありがとう」と言える日まで
本村 妃	1年	神崎清明高校	信じるということ
馬場 瑞紀	1年	神崎高校	世界に届けたいこと
濱田 貴博	2年	西九州大学	自立
永原 良治	代表	新成人	二十歳を迎えて

新エネルギーを体験

子どもたちに新エネルギーについて知ってもらおうと、水素を使った燃料電池の仕組みを体験する水素エネルギー教室80が、1月20日に千代田東部小学校で行われました。

この教室は、ガス・エネルギー事業を行っている岩谷産業㈱が、創業80周年を記念して、全国80の小学校で実施したもので、県内では、千代田東部小学校と佐賀市の思斉小学校の2校が選ばれました。

教室では、5年生31人が地球温暖化や水素について説明を受けた後、水の電気分解を使った水素燃料電池の実験を行いました。電気分解後の水だけでLED



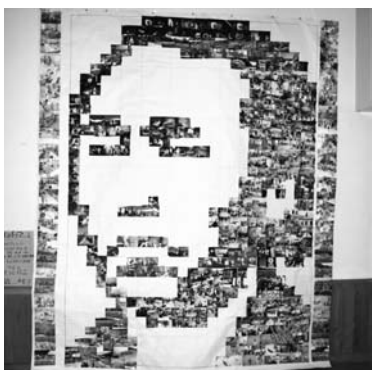
Dが点灯すると、驚きの声が上がっていました。

その後、日本に60台しかない水素燃料電池車に試乗して、未来の自動車を体験しました。

顔写真で龍馬作成

脊振町高齢者生活福祉センター「そよかぜ荘」のロビーに坂本龍馬のモザイクアートが登場しました。

このモザイクアートは、2メートル四方の用紙の上に、脊振町の生きがいデイサービス利用者76人の顔写真をすべて使い、利用者との職員が共同で制作。昨年11月に行われた脊振町民文化祭でお披露目されました。



当分の間、そよかぜ荘に展示されています。お近くに来られる際はお立ち寄り下さい。

郷土の歌人の心を学ぶ

校歌や童謡などを作詞した脊振町出身の歌人・服巻紫浪を讃え、生誕105年を記念した短歌の集いが、1月17日に脊振中学校で行われました。

当日は、脊振中の生徒など約100人が参加し、短歌の入賞作品が披露された後、全員で紫浪が作詞した脊振小、中学校の校歌を斉唱し、功績を忍びました。

服巻紫浪は、神埼中学校や千代田西部小学校の校歌なども作詞しています。



城原川に水位表示を設置

大規模な水害から自らの命、家族、財産を守るためには、発表される防災情報を正しく理解することが重要となります。

国土交通省では、河川の危険度レベルを示した水位表示を城原川協和橋の支柱に設置しました。また、城原川西側堤防上には、水位表示の説明板を設置しています。

◎問い合わせ先

国土交通省九州地方整備局
筑後川河川事務所

☎0942-33-9131



ラジオ番組「MY DEAR

神埼」毎週水曜日、昼12時からFM佐賀で放送中。詳しくは、神埼市役所 市長公室（☎37-0102）まで

不用入れ歯をリサイクル

平成19年にNPO法人入れ歯リサイクル協会（埼玉県、三好勇夫代表）が、入れ歯回収ボックスを設置して3年。回収された貴金属は、重量では1,808グラム、金額にして230,983円となっており、その一部は、ユニセフや神埼市福祉協議会に寄付されています。

入れ歯についている金属のバネには、金や銀、パラジウムなどの貴金属が含まれています。入れ歯回収ボックスは、次の2カ所設置しています。

- 神埼市役所 南新館
- 千代田総合支所 入口

不用な眼鏡を発展途上国へ

昨年4月に神埼ライオンズクラブが市役所に設置した眼鏡回収ボックスから、これまでに眼鏡69個が回収されました。回収された眼鏡は、リサイクルセンターで洗浄、調整後、発展途上国で利用されます。

眼鏡回収ボックスは、次の3カ所設置しています。

- 神埼市役所 南新館
- 千代田総合支所 入口
- 脊振総合支所 入口



提供していただくものは、眼鏡、サングラス、フレームのみ、レンズだけでも構いません。不用な眼鏡などがありましたら、提供をお願いします。

★不用入れ歯を回収ボックスに寄付する方法

- ①汚れを落とし、熱い湯か入れ歯洗浄剤（除菌タイプ）で消毒してください。
- ②備え付けのビニール袋に入れて回収ボックスに入れてください。



学校支援ボランティア ～地域の力で学校支援を!～

～学校地域夢つなぎ応援団キャラクター「ユメリン」～

活動紹介

- 【2学期】
- ・学校図書館の蔵書点検
 - ・体育大会の用具係の補助
 - ・スケッチ大会の安全見守り
 - ・登山の引率補助
 - ・花壇の整地と花植え
 - ・自習監督
 - ・掲示物の浄書
 - ・家庭科ゲストティーチャー



- 【3学期】
- ・算数科における補充指導の補助
 - ・自習監督
 - ・学校図書館の図書ラベル貼り

ボランティアの皆さんに、いろいろなお支援をいただき、子ども達も大変喜んでます。ありがとうございました。これからもご協力をお願いします。

◎問い合わせ先 学校地域連携コーディネーター(神埼市教育委員会 学校教育課内) ☎44-2384

